

## 生乳販売の選択と今後

清水池 義治

(北海道大学大学院 農学研究院 基盤研究部門 農業経済学分野・講師)

smzike@agecon.agr.hokudai.ac.jp

### 1. 規制改革会議農業 WG の提言 (2016/3/31)

#### 1) 提言の要旨

- ・生産者が自由に生乳を生産・販売できるよう、制度面の制約やハンディをなくす
- ・「生産上限枠」(計画生産?)の廃止
- ・指定団体制度の廃止 (=既存共販に参加しない生産者にも補給金交付)  
※さしあたり、生乳共販自体の解体・廃止や、補給金自体の廃止ではない

#### 2) 評価

- ・指定団体制度を廃止(既存共販以外の生産者に補給金交付)しても、酪農の低迷を打開できるか疑問(もともと指定団体制度と酪農低迷との因果関係はあまりない)
- ・指定団体制度のもとでも生乳販売は自由(アウトサイダーになることもできる)
- ・計画生産の廃止は概ね賛成(減産を強いてきたのは国だが)。ただし、数量調整をしなくなると乳価で調整せねばならない。乳価変動は今より大きくなるので、その対策が必要。

### 2. 生乳販売の選択とリスク

#### 1) EU の現状 (※下記参考文献を参照)

- ・生産割当制度廃止(2015年)に伴い、生乳の生産・販売の自由度高まる  
→生産者の価格交渉力の弱さが課題で、EUとして農協の設立を支援
- ・生乳の農協共販率は、EU27カ国平均で60%弱(上昇傾向、「指定団体制度」なし)  
→地中海・東側諸国:30~40%、北西側諸国:60~95% ※飲用比率の違いか?
- ・生産者乳価は、農協共販率の高い国ほど高い  
→また、非農協出荷者の乳価は農協出荷乳価との比較で決まるため、農協共販率の高い国ほど非農協出荷者の乳価が高い。  
※農協は仲間が多いほど乳価が高く、非農協は仲間が少ないほど乳価が高い
- ・非農協(企業)出荷時の乳価は農協出荷時の乳価より高い  
…理由:①非農協(企業)は全量買取りしない  
②農協は低乳価の加工原料乳も処理

#### 2) 生産者のリスク選好と販売選択肢

- ・農協出荷:乳価変動や受取拒否のリスクは小さいが、乳価は低く販売自由度は小
- ・非農協出荷:乳価は高く販売自由度は大きいが、乳価変動や受取拒否のリスクは大

- ・どちらの選択肢も間違いではなく、生産者の選好(好み)次第

#### 【参考文献】

- ・ヨス・ベイマンほか編著『EUの農協一役割と支援策一』、農林統計出版、2015年
- ・Hanisch, M., Müller, M., and Rommel, J., "Support for Farmers' Cooperatives: Sector Report Dairy," European Commission, Nov.2012.
- ・清水池義治『増補版 生乳流通と乳業』デーリィマン社、2015年